

「おわり」から「はじめる」私たちの祈り

※・司会者と◆会衆が交互に祈り、「一同」とある箇所は全員で祈ります。

1 「おわり」を見つめることができるように

・やがて栄光の主として来られ、天地を新たにしてくださる世界の完成者なる神さま。

◆ 私たち聖書信仰に立つ日本の教会が、京都会議から神戸会議まで6回の伝道会議を重ねて宣教協力を深め、国内外の福音宣教の働きに参与させていただいてきたことを感謝します。私たちは、宣教の主ご自身がみわざを前進させてくださることを信じ、主への期待をもってこの祈りを御前にささげます。(解説(1))

・今、私たちは「おわり」の時に立っています。民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、平和が脅かされています。大きな地震があり、深刻な飢饉や未知の疫病が起っています。

◆ 環境破壊が急速に進み、災害が甚大化しています。世界の各地で起きている迫害や紛争も深刻です。あらゆる分断が世界を覆い、格差の拡大に、貧困に、倫理の混迷に世界中が痛み、うめいています。(解説(2))

・教会が直面している困難も多面的かつ深刻です。多くの教会で高齢化が進み、献身者の減少が顕著です。兼牧や無牧の教会が増え、教会の合併や閉鎖、奉仕者の燃え尽きが止みません。(本書第9章参照)

◆ 新型コロナウイルス感染症のもたらした交わりの課題や経済的な困難もあります。さらには、キリスト教から生まれた異端・カルトにより家庭が崩壊し、心も体も傷ついている人々が多くいます。(本書第1章、第7章)

一同：主よ、私たちが遣わされているこの時代の現実から目を背けることなく、聖霊なる神に探られ、教えられて、悔い改めと主への信頼に生きることができるよう助けてください。「おわり」の日の幻を見つめ、希望をもってあなたにお仕えます。私たちをあわれんでください。

2 立場を越えた宣教協力を「はじめる」ことができるように

・私たちをご自身のかたちとして造られた創造主なる神さま。

◆ この世に生を受けたすべての人が、神によって与えられたいのちのゆえに、尊厳をもって福音に生きることができるようしてください。

・家庭や学校で、声を上げることができないまま苦しむ子どもたちに気づき、手を差し伸べることができますように。

◆ 若い魂が主と出会い、神に由来する自分の存在意義をはっきりと知ることにおいて健全に成長し、学ぶこと、働くこと、そして遊ぶことを通しても、主を賛美する者となりますように。キリスト者の豊かな交わりに生かされ、聖書が語る希望に人生の土台を据え、生涯を通して神との確かな関係に生きることができますように。(解説(3)、(4))

・独身として歩む人々と結婚に導かれる人々が、それぞれに与えられる祝福を聖書から学び、賜物を生かして、主にある喜びのうちに歩めますように。神の愛のうちに家庭が築かれ、家族一人一人が、暴力や虐待などあらゆる危険から守られ、祝福を味わうことができますように。(本書第5章参照)

◆ 年齢を重ねた人々が、永遠のいのちの希望をもってさまざまな変化を受け止め、「外なる人」は衰えても「内なる人」は日々新たにされることを覚えながら歩めますように。(解説(5))

・性的少数者、外国人、路上生活者、重い病や心や体の「障害」を持った方など、偏見や差別、無理解に苦しんでいる方々が教会にもいます。そのうめきや葛藤に耳を傾け、互いの弱さを担い合うことで、私たちをキリストの力がおおう教会としてください。(解説(6))

◆ 信徒と教師が、互いの役割の違いを理解しつつ協力し、それぞれの個性を尊重して支え合い、共に主の教会を建て上げることができますように。そして、職場、地域、家庭など、あらゆる領域で信仰をもって生きる信仰者一人一人が、神の国のために用いられることを確信させてください。(解説(7))

一同：私たちは立場を越えて、教会の交わりに生きる喜びを知り、互いを尊敬し合いながら、それぞれの

立場に届く形で福音を分かち合っていきます。主よ、私たちに宣教のための知恵と尽きることのない情熱をお与えください。

3 教派を越えた宣教協力を「はじめる」ことができるように

・キリストをかしらとする教会に私たちを加えてくださり、そのからだの各部分としてくださった贖い主なる神さま。

◆教会が真実に神のみを礼拝し、主の御名のもとに伝道、教育、奉仕のわざに忠実に励み、愛のある交わりを実現できますように。(解説(8))

・教会の歴史を学びつつ、変えるべきことと変えてはいけないものを見極めることができるよう助けてください。かつて日本に置かれたほとんどの教会は、教派を越えた協力のなかで、戦争に加担し、天皇を神とする偶像崇拜を行い、アジア諸国においても神社参拝を強要する国家に与するという罪を犯しました。私たちはその罪を悔い改めます。

◆この時代の政治状況を注視し、為政者のためにとりなしつつ、イエス・キリストの十字架の赦しと、復活の力により、主のきよさに生きる者としてください。私たちの隠れた罪を示して、姿を変えて私たちに忍び寄る偶像崇拜の誘惑に打ち勝たせてください。(解説(9))

・ローザンヌ運動を通して促されてきたように、私たちは「ことば」と「わざ」を通してイエス・キリストをあかしし、福音をあまねく届けたいと願っています。

◆東日本大震災、さらに各地を襲った災害による被災地での教会の働きが続けられてきました。そこにある痛みを担うという、地上に置かれた教会の使命を、そして教派を越えて協力することの必要性を私たちは強く教えられてきました。

・私たちのなかで福音の包括的な理解がさらに深められ、協力して社会的責任を果たせますように。

◆キリスト者の多種多様な働きが教会のわざとしてますます充実し、あらゆる分野において神の国が実現し、福音が前進しますように。(本書第9章)

一同：主よ、私たちは教派・教団・教会・働きの壁を越えて、仕え合い、学び合い、一つのからだである教会として協力して宣教に取り組みます。私たちに愛を加え、謙遜な心を与えてください。(解説(10))

4 地域を越えた宣教協力を「はじめる」ことができるように

・日本と世界各地に生きる一人一人を愛し、生かし、配慮してくださる主権者なる神さま。

◆私たちが、置かれた地域の歴史、文化、風習を理解し、人々の生活を重んじながら、多様な人々の心と現実に届くことばを語るができますように。

・地域の文化に福音の息吹を吹き込み、主にある新しい文化の創出と、神の国の実現のために、私たちを整え用いてください。

◆従来さまざまな宣教方法や枠組みにとらわれることなく、継ぐべきものと捨てるべきものを取捨選択し、新しい取り組みに挑戦することができますように。(解説(11))

・私たちが固定観念から解放され、地域の事柄に柔軟かつ果敢に取り組むことで、世界に祝福をもたらす教会を建て上げていくことができるようにしてください。

◆それぞれの教会が教えられたことや受けた恵みを、地域の壁、特に「都市」と「地方」の壁を越えて分かち合う機会をこれからも追求し、実践します。(本書第4章参照)

・困難の中にある教会や宣教団体をお守りください。孤立することがないように、祈りと献金をもって支え合い、オンラインも含めた交わりをもつことができるように、私たちを押し出してください。

◆とりわけ、被災し、厳しい状況に置かれたままの人々と地域があります。私たちは福島をはじめとする各地の大きな痛みと、声なき声に耳を澄ませ続けます。(解説(12))

一同：私たちが事実を風化させたり、他人事として見過ごしたりすることがありませんように。むしろ被災した方々とともに歩む意識、今後起こる災害に備える意識、地域をこえた当事者意識を持たせてくだ

さい。

5 文化を越えた宣教協力を「はじめる」ことができるように

・世界の隅々にまで御目を注ぎ、それぞれの文化を生かしてくださる、和解の主である神さま。
◆ウクライナをはじめ各地で戦争が起こっています。主よ、平和をもたらしてください。また私たち自身の中にある、争いを生み出す欲望を自覚させ、平和をつくる者とならせてください。（本書第6章）

・富む者がますます富み、貧しい者がますます貧しくなっています。飢餓や搾取をなくし、互いに助け合い、支え合い、分配し合う世界を実現させてください。（解説(13)）

◆科学技術の進歩に伴い、かつてない問題や新たな弊害も生まれています。私たちが神を正しくおそれ、聖書の倫理といのちが軽んじられることがありませんように。むしろ、主にあって科学技術が有益に用いられ、人間の生活の向上に資するものとなりますように。（解説(14)）

・神の創造された美しい世界が、罪と墮落の影響を受けてうめいています。私たちの貪りの罪を赦してください。地球温暖化や環境破壊に歯止めをかけ、すべての被造物が調和して憩う世界の実現のために、私たちが被造世界の秩序の回復に仕える管理者として用いてください。この第7回日本伝道会議を契機として、全教會的に環境保全の取り組みが具体化するよう道を開いてください。

◆主よ、私たちは国境を越えて、文化を越えて、地球規模の諸問題に取り組んでいきます。（解説(15)）

・そのために、まず国外の日本語教会と国内の外国語・多言語教会、あらゆる働きに従事する宣教師たちとの連携と協力を進めます。

◆私たちは、外国から日本に来てくださった兄弟姉妹を感謝し、歓迎します。尊敬をもって違いを学び合いながら、多文化に開かれた教会として、共に世界に広がる宣教を担っていきます。（本書第2章、第3章参照）

一同：私たちの働きは、あなたの宣教の一部です。あなたが始め、やがて完成させてくださることを確信しつつ、最善を尽くして労します。私たちにあなたの視点を与えてください。

6 「おわり」から「はじめる」ことができるように

・主よ、私たちは、まことに厳しい現実に置かれています。しかし、主にあって希望を失いません。私たちは目を上げて、主が再び来られる日を待ち望みます。

◆「その後、私は見た。すると見よ。すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆が御座の前と子羊の前に立ち、白い衣を身にまとい、手になつめ椰子の枝を持っていた。彼らは大声で叫んだ。『救いは、御座に着いておられる私たちの神と、子羊にある。』」（ヨハネの黙示録7章9～10節）

・この希望のゆえに、私たちはこの「おわり」の地で、立場を越え、教派を越え、地域を越え、文化を越えて「はじめ」ます。私たちの宣教協力を祝福してください。

◆「見よ、わたしは新しいことを行う。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。必ず、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。」（イザヤ書43章19節）

一同：感謝と期待をもって、主イエス・キリストの御名を通して祈ります。
アーメン。

（宣言文作成委員会）